ざっくりわかる

成長投資ガイダンス

本資料は「成長投資ガイダンス」の内容を知りたいという方に、
大まかな考え方をざっくり掴んでいただくことを目標としています。

「成長投資ガイダンス」は、コーポレートガバナンスコードの基本的な考え方を前提とし、企業の持続的成長と中長期的な企業価値向上を成長投資の観点から具体化・実装へとつなげることを目的としています。

企業と投資家が、成長投資を拡大する上で共通理解とすべきポイントを具体的に整理しています。

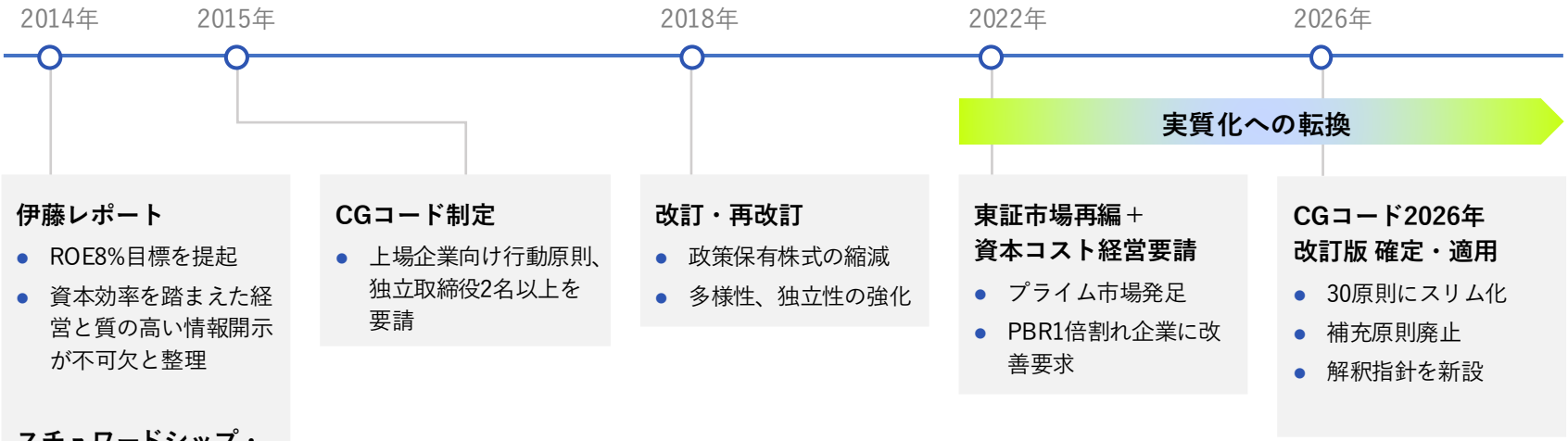


成長志向型ガバナンスへと進化するための方向性を示すものです。

コーポレートガバナンス・コードの基本的な考え方を前提とし、
成長投資の観点から企業の持続的成長と中長期的な企業価値向上を具体化・実装へとつなげることが目的です。



2014年「伊藤レポート」を端緒として、コーポレートガバナンス改革が始まりました。



持続的な成長力が伸びない理由は3つあります。

持続的成長のための、大胆な成長投資や抜本的な賃金上昇への波及が限定的になっています。



資本コストを上回る収益性の確保

- 資本コストを安定的に上回る事業の構築が十分ではない
- 付加価値を再配分する原資が構造的に不足している



短期的な効率指標の追求

- 投資家による形式的な議決権行使やプレッシャーがある
- 企業が一時的な効率悪化を伴う成長投資を躊躇している

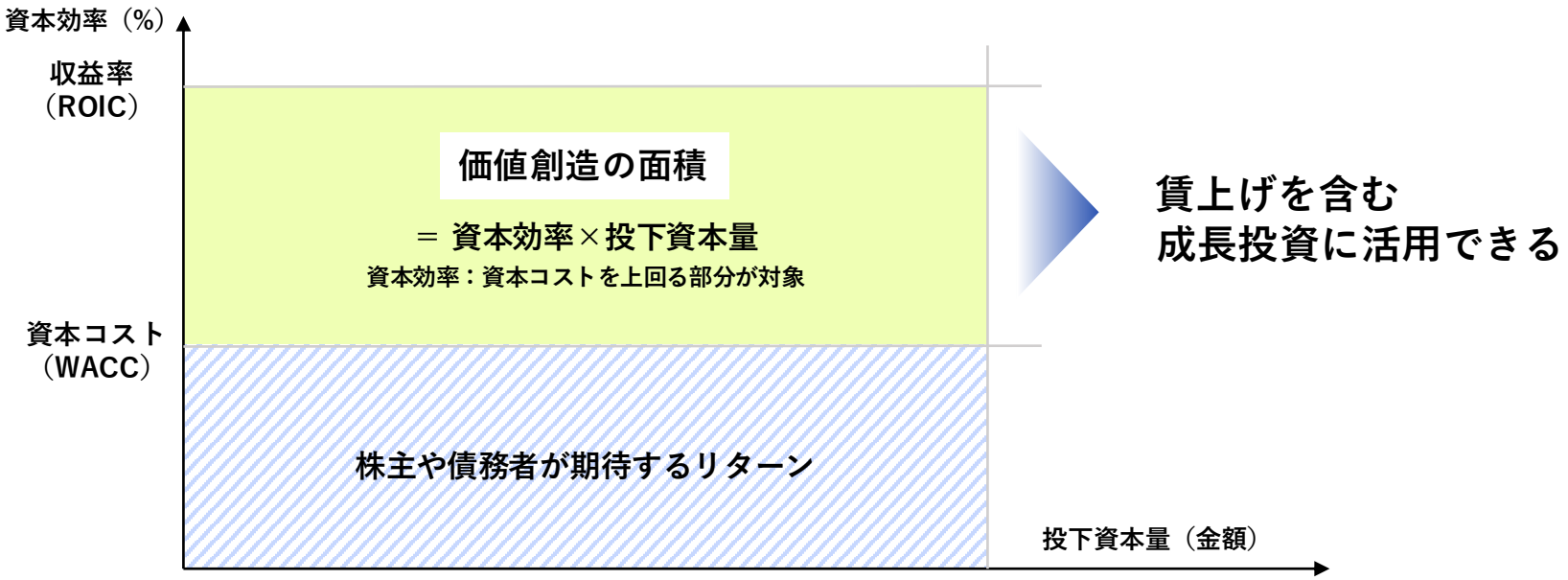


企業・投資家間での目線合わせ

- 企業と投資家の時間軸・評価軸が一致していない
- 成長投資と株主還元のバランスを取るのに苦戦

価値創造＝EP（エコノミック・プロフィット）の考えが軸になります。

EPとは、投資家や債務者に対して必要な資金コストを賄った上で企業に残る付加価値のことです。



企業・投資家・政府を対象として、実務における指針を示しています。

企業



- 成長の道筋を提示
- 規律ある資本循環を主導

適切な説明

対話

市場環境の整備
政策支援

政府



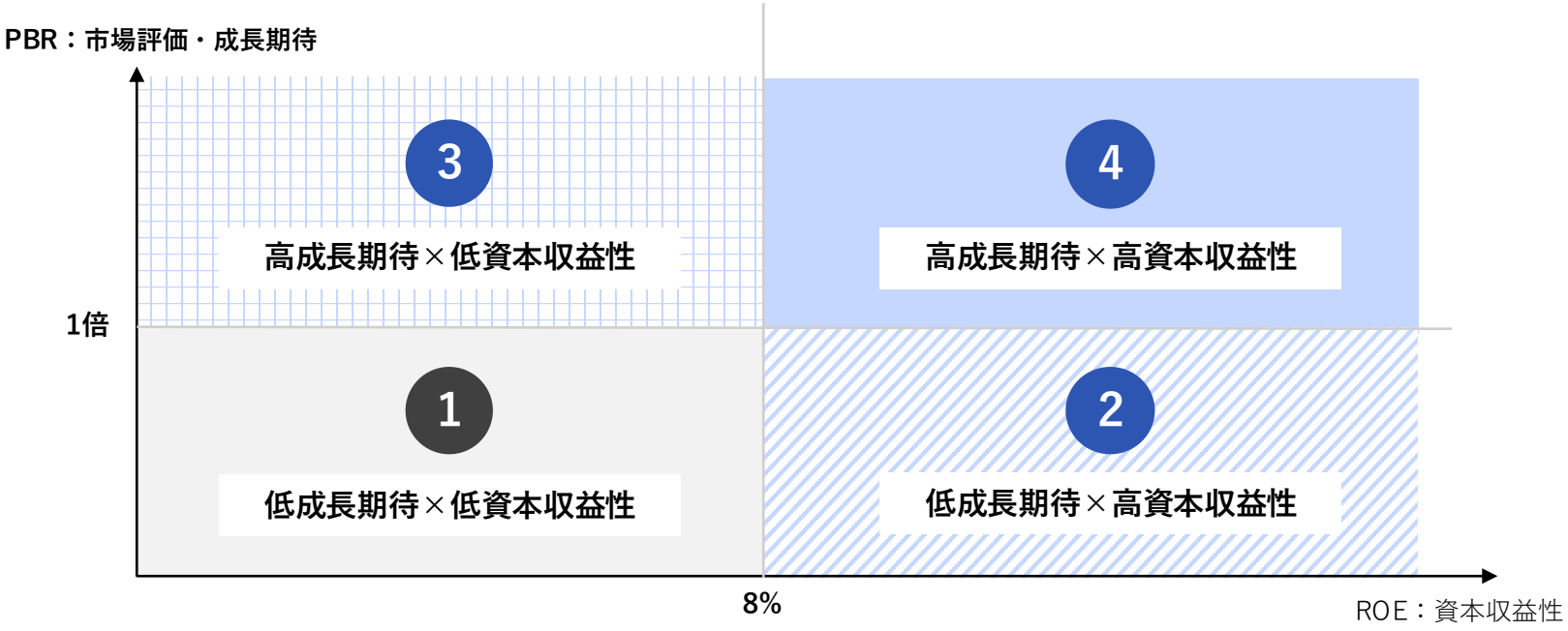
投資家



- 中長期的な価値創造の
  支援へスタンスをシフト

PBRとROEによる「4象限フレームワーク」で企業を分類します。

積極投資を行うべきフェーズにある企業群②～④がガイダンスの対象です。



ガイダンスを理解するのために知っておきたい用語

企業価値

- 企業が将来にわたって生み出すキャッシュフローの総和

価値創造

- 企業が事業活動を通じて、資本コストを上回るリターンを継続的に生み出すこと

エコノミック・プロフィット（EP）

- EP
  ＝NOPAT －（WACC×投下資本）
  ＝投下資本×（ROIC － WACC）

ROIC

- 投下資本に対して、どれだけ効率的にNOPATを生み出しているかを示す

NOPAT

- 営業利益からみなし税金（営業利益×実効税率）を控除した金額

WACC

- 株主資本コストと負債コストを資本構成比で加重平均したもの